

介護老人保健施設しおん

症例概要 利用者 80代 女性 要介護4 認知症度Ⅲb
利用期間 令和6年5月～現在
既往歴 脳出血 高血圧症 糖尿病 白内障 尿路感染症
経過

令和5年10月脳梗塞の疑いにてA病院受診、脳内出血にて手術し、石巻健育会病院でのリハビリを経て令和6年5月にしおんにリハビリ目的で入所される。同年10月夜間にトイレへ起きた際に転倒し右大腿骨頸部骨折。ご家族は手術を望まずしおんでの保存療法対応となる。

内 容

氏はご自宅にいた時から散歩をすること、友達とお話しをすること、美味しい食事を食べることが好きな方だと入所時にご家族からお話がありました。

入所後はリハビリを行いながらユニット内も歩行器を使用し散歩をしたり、他のご入居者の方とおしゃべりをしたりとしおんの生活にもすぐに馴染んだ様子でした。

氏から「ここのご飯も美味しいけど、地元に行って美味しいもの食べたいなあ」と地元に行って食事したいとの希望があり、夏は外の気温も暑い為少し涼しくなってから外出に行くことを提案し本人も楽しみにしていました。

10月になりしおんでの生活にも慣れて来た頃、夜間にトイレへ起きた際に転倒し右大腿部頸部骨折のインシデントがおきました。ご家族から「入院手術はせずしおんに入所しながら保存療法でお願いします」と希望があり、終日ベッド対応での保存療法開始となりました。

保存療法開始後は居室内ベッドにて過ごしていましたが、他のご入居者との関りが出来なくなり職員と会話をしても元気がなく笑顔が減っている様子でした。また骨折の痛みからか食事の摂取量も減り食事中に咽ることもあり食事形態が原形食から軟菜、軟菜からミキサー食へ変更となりました。

氏の骨折後の様子から1人で居室にいることで他のご入居者との関りもなくなり認知症の進行にも繋がるのではないか?食事の摂取量が少ないのは骨折の痛み以外にも何か原因があるのではないか?ユニット職員、看護師、PTと相談し職員や他のご入居者が近くにいれるように日中はベッドを共同生活室へ出し対応を行うことにしました。他のご入居者の方達も氏の顔が見れず心配していた様子でベッドを共同生活室へ移した際には「大丈夫」「早くよくなってね」と声をかけに来られ氏も「ありがとう、頑張るから」と笑顔で答えていました。

3ヶ月経ち骨折部位治癒後から起居動作のリハビリが始まり、段階を踏みながら食事時にリクライニング車椅子への離床ができるようになり本人もベッドではなくテーブルで他のご入居者達と食事ができることを喜んでいました。他のご入居者と一緒に同じテーブルで食べることで食事も残すことが無くなって来ました。

徐々に離床をする時間を増やしていき、職員の介助で大好きな散歩も行けるようになり、他のご入居者と過ごし会話する時間も増えたことで本人の笑顔も骨折前と同じように増えてきました。

本人の「故郷に行き美味しい物を食べる」という目標に向けて、まだリハビリの途中ですが、スタッフ全員 our team で本人の気持ちに寄り添いながら、これからも支援を行っていきたいと思います。